物語2

教材のねらい

1　選定の理由

「伊勢物語」の中から「芥川」「東下り」「筒井筒」「梓弓」の四段と、「筒井筒」の読み比べ教材として「大和物語」「沖つ白浪」を学ぶ。「芥川」はいかにも王朝的な説話で当時の愛というものの一つの形を示している。「東下り」は愛と旅がテーマになっており当時の風習、習慣なども興味深く学ぶことができる。「筒井筒」は幼なじみの恋の成就という前半と男を想う妻の歌が男の愛を取り戻したという後半から成る。「沖つ白浪」は「筒井筒」の後半部分とほぼ同じ内容でありながら、さまざまな点で異なった点があり、興味深い。「梓弓」は男と女の愛情の問題を主題としている。これらは多くの人に愛好され後世の文学に大きな影響を与えた。みずみずしい歌物語の世界を味わい我が国の文化や美意識を学習するのにふさわしい教材である。

2　指導のねらい

内容を理解させ、歌物語の特徴を捉えさせ、我が国の文化史・文学史のうえでの位置を把握させる。物語としての主人公たちの青春期の行動を読み取らせ、生徒自身の人生観の確立に寄与させる。

3　単元の目標

目標について、別表「単元の目標一覧」をご確認ください。

4 評価規準

学習指導要領との対応等	評価規準例	〔知識・技能〕								力等〕
		(1)ア	(1)ウ	(1)エ	(1)オ	(2)イ	(2)ウ	(2)エ		B (1)ア
		言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	枕詞や序詞、掛詞、縁語などの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 序詞などの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。
	芥川	○	○	○		○	○	○		○
	東下り	○	○	○	○	○	○	○		○
	筒井筒	○	○	○		○	○	○		○
	沖つ白浪	○	○	○		○	○	○		○
	梓弓	○	○	○			○	○		○
	古文の窓３					○				
	単元の言語活動４	○								

〔思考力・判断力・表現〕			〔主体的に学習に取り組む態度〕
B(1)イ	B(1)エ	B(1)オ	
「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	進んで昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しみ、副詞の呼応などについて理解し、学習課題に沿って、第三段落があることの構成上の効果について考えようとしている。
○	○		○
○	○		
○	○		
○	○		
○	○		
			○
○		○	

進んで昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しみ、「ば」の用法を理解し、学習課題に沿って、「から衣」「駿河なる」「名にし負はば」の三首の和歌に共通する人物の心情を考えようとしている。

粘り強く昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しみ、内容や構成、叙述を基に人物の心情を考え、学習課題に沿って、同じ和歌を主題とした異なる物語を読み比べようとしている。

進んで昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しみ、係り結びについて理解し、学習課題に沿って、「そこにいたづらになりにけり」という結末が「梓弓」をどのように印象付けているか話し合う。

進んで昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しみ、今までの学習を生かして、想像力を働かせ、人物の心情を考えようとしている。

■言語活動例との関連（【　】は関連する指導要領の言語活動例）

「筒井筒」言語活動１　同じ和歌を主題とした異なる物語を読み比べる。【〔思・判・表〕B(2)ウ】

単元の言語活動４　視点を変えて、物語を書き換える。【〔思・判・表〕B(2)エ】